

サプライズトーク 本人からのメッセージ

よりよく暮らしていくために、
自治体の人たちに伝えたいこと

～基本法・基本計画って・・・私たち本人に会ってえ、話しあってえ～

全国認知症本人大使「希望大使」

大分県認知症希望大使

大分県認知症ピアサポーター

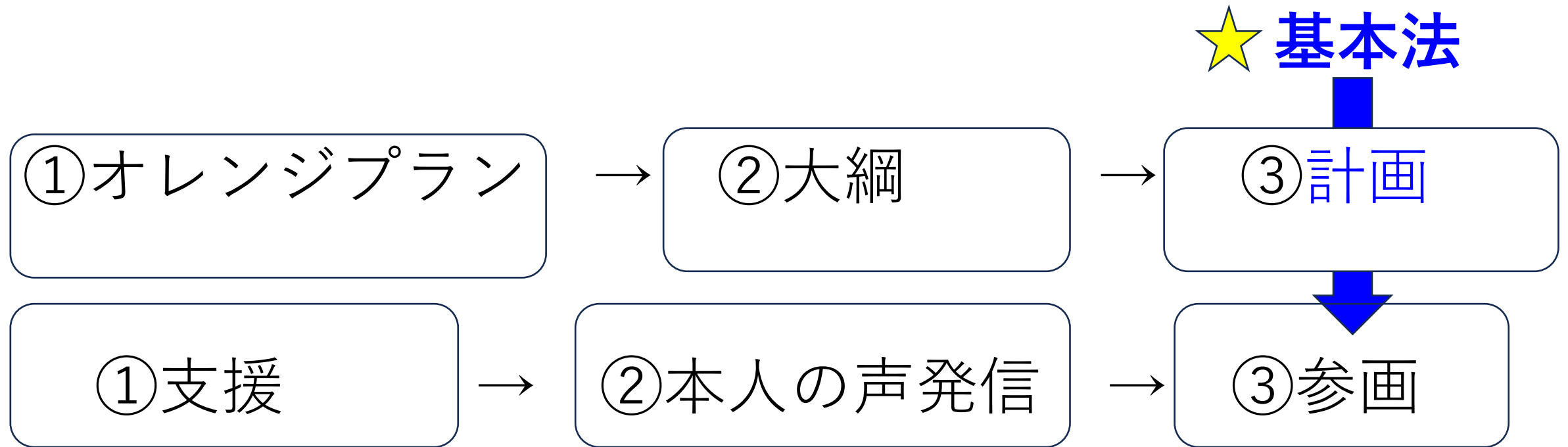
一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ 理事

戸上 守

と

なでしこガーデンデイサービス（有限会社なでしこ） 吉川浩之

変わりゆく「認知症観」



認知症施策推進基本計画

「共生社会」へ向けての「3つのキーワード」

A, 「新しい認知症観」

B, 社会参加と本人参画

C, ピアサポート

認知症施策推進関係者会議・内閣府にて (2024年3月～10月)

認知症の本人3人が参画！

戸上 守、藤田和子さん、 春原治子さん



本人が活動をともしているパートナーとともに
(介護職、看護職、認知症地域支援推進員)



A, 基本計画 前文

(「新しい認知症観」に立つ)

○ ここで示された「新しい認知症観」とは、認知症になったら何もできなくなるのではなく、認知症になってからも、一人一人が個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望をもって自分らしく暮らし続けることができるという考え方である。

富士山が見たいなら、一緒に行こう！



写真だけどね！



仲間と「したい」が重なった時！



それは実現するのです！



次は東京タワーかっ？



今度は「トマト麺」かいっ？



方程式

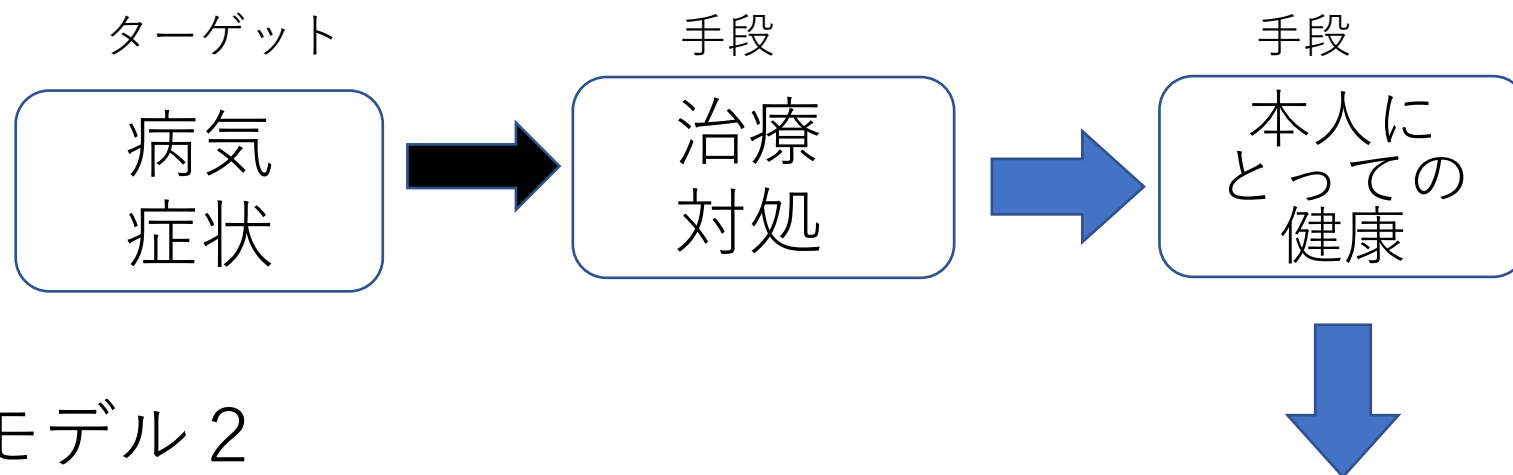
- ・「認知症になる→出来なくなることが増える→不幸になる」



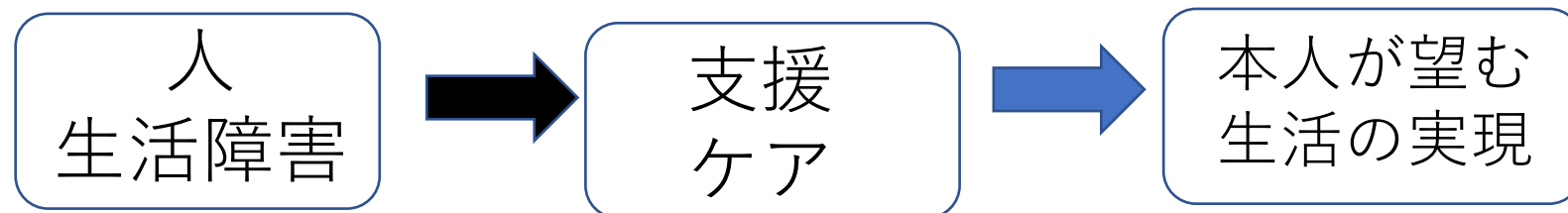
- ・「認知症になる
→出来なくなることが増えてもしたい事をする→幸せになる」

手段をゴールにしない！

モデル 1



モデル 2



(

挑戦できる環境

- ・ 「失敗が悪い」と思う環境→挑戦するのが怖くなる
- ・ 失敗しても大丈夫な体験を積む→いつでも挑戦できる

このヘッドスライディング！



でも、ホームは遠い！



大分南高校vsなでしこヤングイヤーズ



なでしこ若年ヤングイヤーズ



「ソフトボールがしたい」と言う当事者さんに対して

以前→その方を、自分たちのソフトボールチーム
(ヤングイヤーズ)のメンバーにする。

現在→その方の地域でソフトボールチームを作る後押しをして、
ヤングイヤーズが、その地域へ試合をしに行く。



その時、県、市、その市の認知症地域支援推進員のしたことは？

県職員は ユニフォーム来て！



わくわく

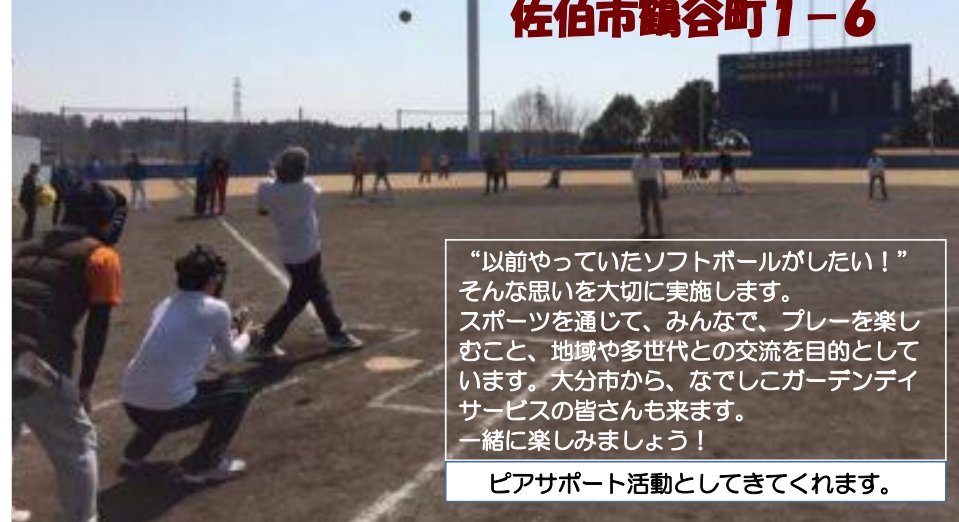
ソフトボール を楽しもう

令和 6 年5月22日(水)

午後1時30分～3時30分

場所: 佐伯市濃霞(のなか)グラウンド B コート

佐伯市鶴谷町1-6



“以前やっていたソフトボールがしたい！”
そんな思いを大切に実施します。
スポーツを通じて、みんなで、プレーを楽しむこと、地域や多世代との交流を目的としています。大分市から、なでしこガーデンサービスの方々も来ます。
一緒に楽しみましょう！

ピアサポート活動としてきてくれます。

参加料: 無料(事前に申し込みのうえ、当日、グラウンドに集合してください)

- 各自、飲み物、帽子の用意など暑さ対策にご協力ください。
- 参加時のマスクの着用は個人の判断(自由)となります。感染対策は個人でお願いします。
- 天候の状況により、開催が中止になることがありますのでご了承ください。

主催・お問合せ: 佐伯市地域包括支援センター

☎23-1632(菅・神崎・高畑)

チームオレンジ、一つの形

ソフトボールチーム作りをする過程で、地域にある資源を繋いだネットワーク！



「本人の思い」を聞くことが先で
仕組みづくりは後よ！

ステップアップ講座開催が目的になっていないか？

ステップアップ講座開催を目的にすると、それが終了すると動きが止まりがち！



では、どうすれば認知症の方と一緒に暮らせる地域を作れるか？



当事者「参画」が鍵に！

※杵築市の事例！

事業する事が目的ではない

- ・ 認知症初期集中支援推進事業
- ・ 認知症地域支援ケア向上事業
- ・ 認知症サポーター活動促進事業

等

Ⅲ 基本的施策

1. 認知症の人に関する国民の理解の増進等

- 【施策の目標】
- 共生社会の実現を推進するための基盤である基本的人権及びその尊重についての理解を推進する。そのうえで、「新しい認知症観」の普及が促進されるよう、認知症の人が発信することにより、国民一人一人が認知症に関する知識及び認知症の人に関する理解を深めることを目標として、以下の施策を実施する。

認知症施策推進関係者会議で話し合われたこと

- ・用語の使い方

今まで専門職等が普通に使ってきた用語の中には、認知症当事者が聞いて違和感を覚える用語や表現があり、それに注意を払い必要に応じて修正が必要である。

例・ケアパス→絶望に向けた言葉や表現、それを示唆するような内容になっていないか？

- ・BPSDや認知症の症状と言われているものの中に、人として当たり前の行動があるのではないか？

人として当たり前のことを、症状と呼ぶ専門職

あるケア研究大会の演題

「なぜ認知症の人は家に帰りたいがるのか？」



「なぜ帰省ラッシュにの列に並ぶ人は、家に帰りたいがるのか？」

「なぜ強制収容所に送り込まれた人は、家に帰りたいがるのか？」

暴力行為？

- デイサービスの脱衣所で、衣類を脱がせる際に職員に対し暴力行為が見られる



今の自分の状況を把握できない（今から入浴する事を忘れてしまっている）のは中核症状のせいかもしれないが！



知らないところに連れて来られて、知らない人に服を脱がされ暴れるのは、人として当たり前では？

私が一人で東京に行けないのは、



私が認知症だからでしょうか？





私が東京に一人で行
けない理由は！



III 基本的施策

3. 認知症の人の社会参加の機会の確保等

そもそも社会参加って、何？

- ・ 国際生活機能分類

(ICF:International Classification of Functioning, Disability and Health) では、「参加」を「生活・人生場面へのかかわり」と定義しており、その領域としてセルフケア、家事や他者への世話、教育、仕事、経済生活、対人関係、地域、社会、市民生活などが示されている。



生活の営みの中にある、たくさんの「社会参加」

プランが変わると、環境も変わる



ケアプラン第2表 生活全般の解決すべき課題（ニーズ） 「ニーズ」が変わる事で、社会参加に！

- ・ 常同行動により何度も買い物に行ってしまうので、常時見守りが必要である。



見守り体制の強化

- ・ 買い物に月20万円以上使ってしまうが、私は買い物がしたい。



「買ったものが売れたら、今まで通り買い物が出来るかも！」

B, 僕等の社会参加！



日常生活の中にある社会参加



自信を取り戻す！



それぞれの役割



それぞれの楽しみ！



(1) 認知症の人自らの経験等の共有機会の確保

認知症の人が診断後早い段階で認知症の当事者に出会い、その経験に触れられるよう、ピアサポート活動等を推進するとともに、**ピアサポート活動**等につなぐため、地域の実情に応じた認知症地域支援推進員の適切な配置や、認知症地域支援推進員と関係機関との連携を推進する。

C,ピアサポート活動とは

認知症の診断を受けた当事者であるピアサポーターが、自らの体験談や考えを話す事で、それを聞く認知症の診断を受けたご本人やご家族、家から出ずに引きこもってしまった認知症の方等の不安を軽くし、前に向かって生きていくお手伝いをします。

認知症相談・個別相談等（室内編）

戸上さん・菅原さん（大分県認知症ピアサポート補助相談員）



認知症相談・個別相談等（野外編）



個別訪問（在宅へ）

（ピアサポーター・地域の認知症推進員・若年性認知症
コーディネーター・実習生と一緒に）



電話一本で、当事者の居るお宅に二人で訪問
3年間引きこもっていた当事者さんが！



どこでもオレンジドア！



2日後には一緒にテニスを！





(2) 認知症の人の社会参加の機会の確保

認知症の人の社会参加の機会の確保が進むよう、本人ミーティングや認知症希望大使など認知症の人の声が発信される機会を促進するとともに、社会参加を契機として、引きこもりがちな認知症の人や家族へのピアサポート活動等を推進する。その際、認知症地域支援推進員が企画調整や相談・支援体制づくりを行うことができるよう支援するとともに、関係者と連携し、広域の市町村でも社会参加の機会の確保が図られるようにする。

認知症の人とともに、認知症の人の幅広い居場所づくり、社会参加機会の確保を推進する。介護事業所において社会参加活動等に参加した利用者が謝礼等を受け取る仕組みを活用した取組を推進するとともに、地域の介護事業所等と企業等が連携しやすい環境整備を推進する。

デイサービス

- ・平成23年4月15日

厚生労働省 老健局 高齢者支援課 認知症・虐待防止対策推進室から都道府県・各指定都市・中核市への事務連絡（若年性認知症施策の推進について）

- ・平成30年7月27日

厚生労働省 老健局 総務課認知症施策推進室・振興課・老人保健課から都道府県・各指定都市・中核市への事務連絡（若年性認知症の方を中心とした介護サービス事業所における地域での社会参加活動の実施について）

わりと綺麗になります！

平成23年4月15日 厚生労働省 老健局 高齢者支援課 認知症・虐待防止
対策推進室から都道府県・各指定都市・中核市への事務連絡（若年性認知
症施策の推進について）に基づいた取組



働くという事！



一緒に考え、一緒に行動（参画）





っていうか、研いでます！



(3) 認知症の人の社会参加の機会の確保

若年性認知症の人や家族等のニーズ、若年性認知症の人が生活する地域資源に応じた支援を行うため、若年性認知症支援コーディネーターが認知症地域支援推進員や地域包括支援センターの職員に対して支援を行うこと、認知症地域支援推進員が若年性認知症支援コーディネーターに対して地域のピアサポート活動の情報等を紹介すること、若年性認知症支援コーディネーター等と企業の産業医や両立支援コーディネーター等による連携した対応を行うことなどを推進する。

有限会社なでしこ

(デイサービス、ホームヘルパーステーション、グループホーム、
居宅介護支援事業所、有料老人ホーム)

有限会社なでしこ
(なでしこガーデンデイサービス)

若年運輸 (株式会社)

デイサービス
有償ボランティア
草刈り、農作業等

ピアサポート
県委託事業・市事業
ピアサポート活動

軽貨物・配達
運送業下請け
個配・配送

「若年運輸」 時給960円



働き盛りで仕事を辞めなくてはならなかったが、私は仕事をしたい！



2017年4月
戸上さん

そんな戸上さん
でも、**診断直後**
頭から布団をか
ぶり、引き籠っ
ていた時期が一
年ほど続くこと
もあった。



でも今は仲間が出来て！



社会参加し、生き生き楽しんでいる私たちの姿と声



- ・県や市の行政担当者、認知症地域支援推進員さんたちが
 - ・ちよくちよく、私たちに会いに来て、
 - ・いっしょに話したり、いっしょに汗をながしたり、楽しんでいます。
- *その中で、わたしたちの何気ない声や本音を聴いて、
施策に反映したり、県や市全体に発信してくれています。



自然で、本音の社会参画

(Natural true feelings Social participation)

全国合同セミナーご参加の皆さんへ！

私は皆さんより先に認知症をやっておりますが、そんなに悪いものではありません。

認知症の人にしか見えない景色を見に、認知症になってみませんか？
皆さんのお越しをお待ちしております。

「認知症クラブ」は、きっと皆さんが思い描いているよりも、楽しいですよ。

失敗しながらですが、毎日やりたい事に挑戦出来てます。

多くの方に「認知症は怖い病気ではありません」と伝えたいです。

ご清聴
ありがとうございました。

